

目的：食物嗜好の度を測定する尺度は Hedonic scale の他、嗜好と行動の双方を考慮に入れた食品受容の全体的な測定に用いられる FACT scale 等がある。戸田らにより、すでに両尺度間に高い相関が成立することが報告されている。今回は、演者らにより日本語に訳され、低年齢者に適用されやすいと考えられる、より簡単な Hedonic scale (5段階尺度) と FACT scale (9段階尺度) との関係について調査し、食物嗜好と受容との関係について検討を加えた。つぎに、食品群別の摂取量と FACT scale との関係についても調査し、食物摂取と受容との関係について検討を加えた。

方法：Hedonic scale と FACT scale との関係については、19歳～37歳の男性15名、女性35名、合計50名を対象にし、卵類、魚介類、肉類、野菜類、いも類、穀類に関する18品目に関して、相関係数および回帰直線式を求め、相関係数の有意差検定はt-テスト法によった。食物摂取と受容との関係については18歳～20歳の女子短大生50名を対象にし、乳類、卵類、魚介類、肉類、野菜類、いも類、穀類の7食品群に関して、食物摂取量は各食品群別の3日間の摂取量を調査し、各食品群別の FACT scale との関係について、同様な処理を行なった。

結果：Hedonic scale と FACT scale との関係については、全18品目に関して危険率0.1%水準で、相関が成立することを有意と認めた。一方、食物摂取量と FACT scale との関係については、乳類、卵類、肉類、いも類に関して、危険率0.1%水準で、魚介類、野菜類、穀類に関して危険率1%水準で、両者間に相関が成立することを有意と認めた。